

# 令和5年度第1回北海道科学技術審議会議事録（HP公開用）

日時：令和5年8月29日（火） 9：30～11：00

場所：かでる2.7 620会議室（オンライン併用）

出席者：

（委員）朝倉委員、金子委員、川辺委員、玉井委員、中村委員、長谷山委員、福島（知）委員  
福島（道）委員、實金委員、吉成委員

（事務局）水口次世代社会戦略監、吉田科学技術振興担当局長、西海科学技術振興課長

## 【開会】

（吉田局長）

おそろいになりましたので、令和5年度第1回北海道科学技術審議会を開催したいと思います。

私は本日の司会をさせていただき、科学技術振興担当局長の吉田でございます。委員の皆様におかれては、大変お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

開催に先立ちまして、委員の改選に伴い、本年5月より新しく就任された委員がいらっしゃいますので、欠席の方も含め、私からご紹介いたします。

まず、会場でご出席いただいていますSOC（株）代表取締役社長の朝倉由紀子様です。続いて、小樽商科大学 産学官連携推進部長の玉井健一様です。続いて、帯広畜産大学 生命・食料科学研究部門食品科学分野教授の福島道広様です。続いて、本日はオンラインで出席されております旭川医科大学 副学長の川辺淳一様です。最後に、本日は欠席されております酪農学園大学 農食環境学群・食と健康学類教授の石井智美様です。以上5名の委員が新たに任命されておりますので、よろしく願いいたします。

次に、本日の出席状況について報告いたします。本日は、石井委員、内島委員、鈴木委員、田柳委員、水野委員の5名が、所用により欠席されていますが、オンラインで出席されている金子委員、川辺委員、中村委員、實金委員、吉成委員を含め、10名が出席されており、1/2以上の委員の出席をいただいていることから、科学技術振興条例の規定により本会議が成立していることを報告いたします。それでは、審議会の開会に当たりまして、総合政策部次世代社会戦略監の水口より、ご挨拶を申し上げます。

（水口次世代社会戦略監）

次世代社会戦略監の水口でございます。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、感謝申し上げます。

また、日頃より、科学技術の振興に対して、ご支援、ご協力をいただいていることに、厚くお礼申し上げます。

本道は、全国を上回るスピードで急速に人口減少や少子高齢化が進んでおります。また、近年のカーボンニュートラルの取組や国際情勢の変化による食料安全保障の重要性の高まり、あるいは生成AIの急速な普及といった動きなど、社会全体が大きく変化する中、本道が抱える課題を解決し、持続的な発展を遂げるためには、科学技術が果たす役割は非常に重要と考えております。

道におきましても、審議会委員の皆様、昨年度1年間にわたり様々な議論を交わしていただき、令和5年度から5カ年間を対象期間とする「第4期北海道科学技術振興基本計画」を本年3月に策定したところでございます。

道としては、本計画を基に、産学官の連携をより一層、密にしながら、道内の研究活動に対する支援、研究プロジェクトの獲得や推進などに着実に取り組んでいく考えでございます。

一方で、本道における科学技術の振興は、道の取組のみで実現できるものではなく、産学官金の力を結

集するとともに、道民の皆さん一人一人のご理解を得てこそ、達成できるものと考えております。引き続き、皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

本日の審議会では、本審議会の会長、副会長をご選任いただくほか、昨年度までを期限としていた第3期の「北海道科学技術振興計画」の最終年の推進状況についてご審議いただくとともに、「令和5年度の北海道科学技術賞及び奨励賞の選考」について、ご説明させていただきます。

限られた時間でございますが、委員の皆様におかれましては、今後の本道の科学技術の振興に向けて、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。簡単でございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。

(吉田局長)

ありがとうございます。

当審議会は、原則公開としておりますが、本日の議事のうち、北海道科学技術賞及び北海道科学技術奨励賞の候補者の選考に係る議事につきましては、個人情報等に関わる内容を含みますことから、非公開とさせていただきます。

本日の会議時間は、概ね1時間30分程度を予定しております。皆様どうぞよろしくお願いたします。

また、Webを併用しておりますので、委員の皆様におかれては、大変ご面倒で恐縮ですが、ご発言いただく際は、お名前を仰っていただきますよう、ご協力をお願い申し上げます。

#### 【議題1 会長、副会長の選任について】

(吉田局長)

それでは、議事を進めてまいります。本来であれば、本審議会の進行につきましては、会長が行うべきところですが、委員任命後の初回の会議でございます。会長が選任されるまでの間、私が引き続き進行役を務めさせていただきます。本日の議題は次第のとおり1から4として、ご用意しております。

まず議題1「会長、副会長の選任について」審議いたします。今回、委員の改選後、はじめての審議会であります。科学技術振興条例の第23条第1項及び第2項により、「審議会に会長及び副会長2人を置き、委員が互選すること」と定められております。選任に当たって、ご意見のある委員はいらっしゃいますか。

(福島(知)委員)

皆さんから意見がないようですので、事務局案をご紹介いただけないでしょうか。

(吉田局長)

事務局としましては、前期に引き続き、会長には北海道大学総長の寶金委員、副会長には、北海道科学技術総合振興センター専務理事の福島委員と北海道立総合研究機構理事の鈴木委員をお願いしたいと考えておりますが、皆様如何でしょうか。

<異議なしとの声あり>

(吉田局長)

ご異議なしということでよろしいでしょうか。

なお、鈴木委員については、本日所用により欠席されておりますので、事務局より副会長に選任された旨、後ほどお伝えし、お引き受けいただきましたら、その旨、皆様にご報告させていただきます。

それでは、会長が選任されましたので、これ以降の議事の進行については、寶金会長にお願いいたします。

## 【議題2 北海道科学技術振興計画の推進状況について】

(寶金会長)

ご選任いただいた北海道大学の寶金でございます。

前期に引き続き、会長を拝命しました。両副会長、皆様にお手伝いいただきながら、進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、議題2について、先ほど戦略監からお話ございましたように、昨年度に終了した第3期北海道科学技術振興計画の推進状況について報告を承るということでございます。事務局から説明をお願いします。

(西海課長)

北海道科学技術振興計画の推進については、北海道科学技術振興条例により、毎年、科学技術の振興に関する施策の推進状況を公表することとされており、令和4年度の推進状況について取りまとめましたので、ご説明いたします。

本冊は資料1-2になりますが、大冊ですので概要版である資料1-1により、ご説明させていただきます。まず1ページ目をご覧ください。はじめに、昨年度末に終了したこの振興計画は、平成30年度から令和4年度までの5年間を推進期間とし、中ほどの図にある3つの基本目標などを実現するため、食・健康や環境・エネルギーなど4つの分野における重点化プロジェクトと、研究開発の充実など、5つの基本的施策に沿って取組を推進しました。

2ページ目をご覧ください。ここからは重点化プロジェクトに係る取組となります。道と大学などの関係機関が連携して重点的に取り組むこととしているプロジェクトの1「食・健康・医療分野」につきましては、「健康科学・医療融合拠点の形成」として、北大を中心にCOI-NEXTを活用した「こころとカラダのライフデザイン」拠点の形成などが行われてきたところです。

次に、2の「環境・エネルギー」分野につきましては、「エネルギーの地産地消」として、地域新エネルギー導入コーディネーターを市町村等へ派遣し、地域の取組と事業者のマッチングなどが行われてきたところでございます。

3ページをご覧ください。3の「先進的ものづくり分野」につきましては、「ものづくり産業と第1次産業等との連携による生産性の向上」として、技術系人材の育成に向けたセミナーが開催されたほか、「自動車の自動運転に関する研究開発の推進」として、国や民間企業等による実証実験の誘致などが行われてきたところです。

次に、4の「AI・IoT等利活用分野」につきましては、「AI・IoT等の利活用による地域社会の活性化」として、積雪寒冷地におけるドローンの利活用に向けた飛行実証などが行われてきたところです。

4ページをご覧ください。ここからは、3つの基本目標の実現に向けた、5つの基本的施策の取組状況などを取りまとめました。基本的施策1「研究開発の充実及び研究成果の移転等の促進」につきましては、大学や道総研などが、北海道の特性を活かした研究開発や拠点の形成などを推進してまいりました。

5ページをご覧ください。基本的施策2「道における研究開発等の推進」におきましては、主に道総研

における研究開発や研究成果の活用促進などについて、まとめてございます

6ページをご覧ください。基本的施策3「産学官金等の協働の推進」におきましては、チャレンジフィールド北海道による取組や、1月に札幌市で開催された産学官連携フォーラムなどについてまとめてあります。その下、基本的施策4「知的財産の創造、保護及び活用」におきましては、知的所有権センターに配置した特許流通サポーターによる支援などをまとめております。

なお、昨年報告の際も触れさせていただきましたが、コロナ禍ということもあって指標の相談件数が落ち込んでおりましたけれども、令和3年の実績値が627件だったことを踏まえますと、徐々に回復傾向にあります。

7ページをご覧ください。基本的施策5「人材の育成・確保及びコミュニケーション活動の促進」におきましては、移動理科教室や科学イベント「サイエンスパーク」の開催などをまとめております。

なお、サイエンスパークの指標もコロナ禍により、直接科学に触れ合う形態の中止を余儀なくされておりましたが、令和4年はリアル開催を実現するとともに、オンラインプログラムについては令和2年度の開始以降、アクセス数は年々増加しているところでございます。

8ページをご覧ください。「道内6地域における取組状況」につきまして、道内の各地域において、大学・高専や産業支援機関、地元企業などの「産学官金」が連携をして、地域の特色を活かしたものづくりや地域課題に対応した技術力向上のための取組などが行われてきたところでございます。

最後に9ページをご覧ください。こちらは5年間の計画期間における推進状況の取組事例を簡単に1枚でまとめたものになります。上段には重点化プロジェクトに係る取組、下段には基本的施策に係る取組について、過去取りまとめてきた個別の内容を掲載しており、こうした個々の取組が最終的には基本目標として掲げた3つの目標に貢献したものと考えております。

以上、駆け足で恐縮ですが、北海道科学技術振興計画に係る令和4年度の推進状況について、ご説明いたしました。この推進状況については、本日ご承認いただければ、9月11日に道議会に報告する予定となっております。

また、本議題に関連して、参考資料を二つ付けております。一つ目は参考資料1として、昨年度に当審議会でご議論・答申いただきました、今年度からスタートした新しい第4期北海道科学技術振興基本計画の概要になります。来年度の審議会におきましては、この新しい計画に基づく取組を取りまとめ、ご報告させていただくこととなります。

二つ目は参考資料2として、北海道科学技術振興条例の条文になります。こちらは推進状況の公表などが規定されているものとともに、本年2月の審議会でご報告させていただきましたが、第1条の目的において、本道の科学技術の振興に資するよう、その対象となる科学技術の範囲に、人文科学のみに係るものも加えるというもので、道議会で議決の上、4月1日付けで施行されましたので、改めて添付させていただいております。

議題2の説明については、以上でございます。

(寶金会長)

ただ今、第3期の北海道科学技術振興計画の報告がございました。感想も含めて、ご意見、ご質問があればお願いします。

私の方からは4ページの指標について、製造業の付加価値生産性の計算方法など、根拠になるものが分かりますでしょうか。

(吉田局長)

付加価値生産性につきましては、経産省の工業統計調査による数値となっております。

(寶金会長)

もう1点は7ページの指標について、サイエンスパークの参加者はコロナ禍の影響が出てしまったことは当然だと思いますが、就職率は直接には影響がなく、その中で、目標値に届かなかったことをどう考えるか。要するに、目標値の設定が問題だったのか、我々自身の課題でもあるのですが、道や委員の皆様からコメントなど如何でしょうか。

(福島(道)委員)

私は就職担当の仕事もさせていただいた中で、本学の学生に限って申し上げますと、まず学生にとって就職となると大きな企業へと行って、道外の企業の方が非常に多いです。ただ、道内の企業にも本学からは50%くらいコンスタントに就職しているんですけども、やはり道内の企業の数、規模が学生にとって魅力的なものなのかというところを、もう一度、考えていたところです。北海道として、道内の企業の活性化に対する施策を今後お持ちになるかどうかポイントだと感じています。

(寶金会長)

ありがとうございます。これは事実なので、私もしっかり受け止めないといけないと思いますが、一方で、全体の出入りというところで、戻ってくる人もいたと思いますし、経時的に見ると下がっていてコロナ禍の影響とも考えづらいところだと思います。

皆様方にもお手伝いいただいて、第4期の計画には「基本」という名称が付きまして。相当にアップデートされていて、デジタル、グリーン、食・ヘルスケア、先進的ものづくりという形で、このあたりの指標もだいぶ見直されています。本資料は過去5年間のまとめなので、このような値が出ておりますが、他にコメントは如何でしょうか。

私からもう1点、2ページの「食・健康・医療」分野について、付け加えるほどのことでもないのですが、そもそも北海道科学技術振興計画は基本的に国全体のサイエンスとはちょっと距離があり、遠隔医療というのは北海道らしさという意味でも重要です。旭川医大も歴史的に良くやってくさっているのですが、NTTの5Gを利用して、北大でも産婦人科系と皮膚科系で、リアルタイムに高精細な画像診断、画像というのは皮膚の病態やエコーなどを操作することで、診察できる実証実験を行っていましたから、北海道にとって科学技術における遠隔医療はフィールドとして非常に将来性があると思いますので、付け加えていただくとありがたいです。北大の産学連携の部署に聞いていただければ、今も続いているNTTとの仕事があると思います。

(金子委員)

最近の北海道に関する大きなニュースとして、ラピダスの工場進出の決定があります。当然、産業政策上、大きなインパクトがあるものと思いますが、科学技術政策上でも関係があった、もしくはこれから関係してくるものと思います。例えば、この5年間の実績に関わったことがあるか存じ上げませんが、誘致に貢献したようなことなど、何かがあれば追記しても良いと思います。

(寶金会長)

半導体の話は第3期の計画の時に降って沸いた話であり、そのシーズや基盤になったものがあれば記載しても良いのではということですが、事務局からコメントはありますか。

(吉田局長)

寶金会長の仰るように、道の施策として直接、第3期の計画に沿ったものはなかなかないと感じています。一方で、第4期計画の推進においては、先ほどご指摘のあった理工系の道内大学卒業者の就職率の向上であるとか、全般的な付加価値の向上に大きなインパクトがこれからあると思います。政策としても、そのようにやっていかなければならないと考えておりますので、第3期の取組としての記載は難しいですが、第4期に向けて、道としても進めていきたいと考えております。

(寶金会長)

金子委員のご指摘も、道のお答えも、その通りだと思います。第3期の計画に基づいて今回のラピダスを誘導したとは思いつらく、あくまでラピダス自身のジャッジと、周辺の様々な好条件が整ったことによるものと思います。本当は引き金になるものが計画の中にあり、アウトカムとしてあれば次に繋がったという形になったところですが、第4期基本計画の中で産学官連携による活動の推進なども記載しています。

(福島(知)委員)

今のやり取りに関連しまして、私は昨年も第4期計画策定の作業部会に関わらせていただいて、その後にラピダスの話が出てきたものですから、第4期計画は今後途中で見直すタイミングがあるのでしょうか。それとも記載はなくとも行っていくという扱いなのでしょうか。

(吉田局長)

現時点では、この時期に見直すということは考えておりませんが、ラピダスの本格稼働は第4期計画が終わる直前になる予定であり、パイロットラインのスタートはもう少し前となりますので、状況によって検討しなければいけないと考えています。

(寶金会長)

第4期計画の策定時点で本件はまだ明確ではありませんでしたが、非常に大きなインパクトがあるものです。知事のご意向などもあると思いますので、事務局もお考えいただいて、マイナーチェンジすべき時期があるのではないかと私も感じています。

(長谷山委員)

令和4年に国土交通省北海道開発局と本学とで、連携協定を締結しました。道路標識など道路附属物の点検にAIやドローンを導入することを目指すものです。既に研究開発・実証に着手し、実証のためのデータの取得を開始しています。道路インフラの維持管理は、面積が広い北海道には負担で、さらには点検技術者も少なくなっていることにより、デジタル化からDXを生み出さなければならないという現状が背景にあります。

資料1-1の3ページのAI・IoT等の利活用による地域社会の活性化の部分に、積雪寒冷地における

ドローンの利活用の記載がありますが、連携協定を結んで AI・IoT 等を利活用した北海道の道路インフラの維持管理において、道路は一次産業にも密接に関係するものだと思います。ここに記載がないのは何かお考えがあったのでしょうか。

(水口次世代戦略監)

この項目のまとめとして道の事業をはじめ、関係機関の主だった取組を記載しておりましたが、精査しまして、先生の仰った掲げられる事項は掲げたいと思います。

(寶金会長)

長谷山委員の事業も道内のインフラの省力化・効率化という大きな話で、道にも関わりがあると思いますので、本項目に記載していただければと思います。

(福島(道)委員)

長谷山委員の仰った AI・IoT は非常に重要で、2 ページの食・健康・医療分野の食のバリューチェーンの構築に、スマート農業や AI・IoT システムを使った新たな技術開発は入っていますが、北海道が食料基地であるならば、基本的にはスマートフードチェーンという一つの大きな関わりの中で、生産、加工、流通、消費といったものがどのように繋がって行って、それを AI・IoT により、どう活用していくか、道として、そのモデルを作っていくことも大切だと思います。

例えば令和 5 年度に向けて、それぞれの技術開発は各研究機関で行っていますけれども、それを網羅的に取りまとめ、その繋がりを道として、どのようなモデルを作るかということ将来構想として上げていくことが必要になると思いますから、そういったことを考慮した施策をお願いします。

(寶金会長)

道においても、そのような視点から行っていただきたいと思います。

(吉成委員)

8 ページについて、本学は白糠町と共創の場形成支援プログラムを進行中でございますけれども、9 ページの下の方に記載のあるチャレンジフィールド北海道が採択され、その一員として我々も活動させていただき、支援を得ながら様々な方との共創ができていますので、枠組が良く働いていると思っております。

それから胆振地域のものづくり企業のための技術・研究シーズ発表交流会を行い、盛況でして、胆振総合振興局の支援を得ながら行ったということで、先進的のものづくり分野の下地作りが育っていると言いますか、関心が高いと思っています。

ラピダスの話題も出ておりますが、明日、地域における懇親会を行います。こういった環境変化をより素早く取り込んで、第 4 期科学技術振興基本計画を実行していけるよう、行政においては施策の展開あるいは情報伝達をお願いしたいと思います。

(寶金会長)

今のご発言も第 4 期に向けた具体の期待というご発言だったと思います。白糠の COI の基盤はチャレンジフィールド北海道のサポートがあったということですね。

(吉成委員)

オール北海道で取り組むプラットフォームが徐々に認知されていると思います。

(川辺委員)

2ページの遠隔医療に関して、広大な領域で少子高齢化が進む中、地域医療をどう維持するか、実装化は近々の課題と認識しております。旭川医大というより3医大、さらにはAI・IoTを活用した開発も近々に必要ですし、オール北海道の中で遠隔医療の推進というのが重要なポイントで、色々な科、複数の大学、産学連携によって進めていかなければいけない認識を持っていますので、会長の指摘に同意します。

また、先ほどの就職率について、道内に就職して道内の産業を盛り上げることも大学の一つの使命ですが、もう一方は、世界中に活躍する人材を輩出する観点もありますので、目標値はどれくらいが妥当なのかというのは、今申し上げた両方の観点があると思います。全部が全部、道内に残るのも如何なものかということもありますので、具体の根拠に基づいた目標はこのようなものだというのがあると、就職活動の落とし込みを持っていけるという感想を持ちました。

(寶金会長)

前半部分は仰るとおりで、後半部分は実は別の会議でも話題に上がったこととして、地元の大学生が地元就職する率をKPIとして使う傾向にあるのですが、本当に正しいのかという議論はずっと続いています。そもそも、地域の外側から来ている学生が多いので、帰ってしまうために高い値を求められない。それから、地元就職すれば、それが貢献なのかというのは川辺先生が仰ったように、必ずしも端的には言えないので、KPIとしては要注意でデリケートな値だと思います。いまは理工系を捉えていましたが、保健医療系で捉えると80%になるため、値の取り方によっても随分変わります。第4期においては本数値について、誰もが納得するものにした方が良くと思います。

(西海課長)

事務局より道内就職率の件につきまして、令和4年度の目標値は平成28年の基準年から毎年1%以上、上げるということと、平成27年からCOC+という文科省の知の拠点大学による地方創生推進事業というものがございまして、5年間実施され、51%を超えるという目標でしたので、本指標の目標値も51%と定められました。

本事業は国の事業としては終わりましたが、継承事業として室蘭工業大学をはじめ、道、大学、高専、地方自治体、関係団体等も参画して、北海道若者活躍プロジェクトとして活動を続けております。まずは学生に地域のことを知ってもらい、地域に愛着を持ってもらうということで、地域の課題に学生が取り組む経験を持ってもらうほか、地域を学ぶ教育プログラムを展開するような取組が進められています。

(寶金会長)

51%の根拠について、ご説明いただきました。ほかに如何でしょうか。

(朝倉委員)

今のお話を聞いていて、地元のIT企業として非常に耳が痛い話でしたが、私は北海道IT推進協会という道内のIT企業が所属している団体の副会長をしております、なかなか道内のIT企業が学生を採



用できていない。皆さん是非採用したいものの、なかなか集まらないという同じ悩みを持っております。IT企業の魅力を学生に上手く伝えられていないところがありまして、道内IT企業が連携して、なんとか学生と接点を持とうということで説明会の開催などをしてしております。やはり私が親の一人として、子供に遠くに出て行って、色々なものを見て知識を深めて欲しい。また、大きな企業は道外に多くありますので、そちらに行ってもらいたいという気持ちもあるものの、道内で頑張っている企業も多く、私達もさらに魅力を発信していきたいと思っておりますし、道と力を合わせて学生に魅力を伝えていく取組をしていければと思っております。

先ほどから出ていた道内就職率の理工系学部に関して、私の会社は文系4割、理系6割で、文系の方も多く採用しており、どんな方も活躍できると思っておりますので、理工系学部に絞って目標を立てられていたことが少し気になったのですが、第4期の目標値は新規大卒者の道内就職割合となっていて、設定の考えを変えられたのでしょうか。

(吉田局長)

第4期では、道内就職率に係る指標から理工系という文言を外しております。これは、科学技術基本法が改正され、「人文科学のみに係るものを除く」規定が外れたことによるものです。科学技術は広く人文科学、社会科学を含むものとして理解し、変更いたしました。

(寶金会長)

企業と修士課程、博士課程の学生とのインターフェースをどう作っていくかは、ずっと日本社会の問題だったのですが、ジョブ型のインターシップが行われており、進化していると思います。第4期に向けて、本計画を道内のスタートアップのような中小企業にも理解してもらう必要があるというのが、朝倉委員のメッセージとして、私は理解いたしました。

さて、いくつか記載を足してほしいという意見がありました。本資料はプラスアルファできるものと考えてよろしいでしょうか。

(西海課長)

そのようにしたいと思います。

(寶金会長)

第3期の状況も踏まえて、どこかでマイナーチェンジなどをした方が良いとの意見もあったと思います。そちらは事務局とご相談していきたいと思っております。

<議題3について、議事録公開時は非公開といたします>

【議題3 令和5年度北海道科学技術賞及び北海道科学技術奨励賞候補者の選考について（諮問）】

【議題4 その他】

(寶金会長)

最後に、その他ということで、事務局から何かございますか。

(西海課長)

1件、情報共有としまして、例年、道内6地域において、産学官金等の関係者による地域意見交換を開催しておりますが、本年は8月から10月中旬にかけて順次開催いたします。

座長を務めていただく6地域の委員の皆様におかれては、諸調整にご協力いただき、ありがとうございました。当日もどうぞよろしくお願いいたします。

(寶金会長)

全体を通して、何かご発言ありますでしょうか。

それでは、事務局にお返しします。

(吉田局長)

本日はご多忙のところ、長時間にわたり、ご審議いただきまして、誠にありがとうございました。いただいたご意見は反映してまいりたいと思います。次回の審議会は、11月の開催を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。閉会に当たり、総合政策部次世代社会戦略監の水口より、一言お礼申し上げます。

(水口次世代社会戦略監)

本日は長時間ありがとうございました。科学技術の振興や研究開発に係る方々の交流が活発になることで、人が北海道に集まり、産業が集積し、研究機関が集積するなど、良い発展に繋がっていくと思っております。道も様々な分野を結びつけていく視点を忘れないようにしたいと思います。全てに道が関わるものではないにしても、何が起きているか、どういったお手伝いができるか、どなたにどういったことを促せば動かせるのかに着目して、皆様と力を合わせて科学技術の振興に取り組んでまいります。至らない部分がありましたら、何なりとお申し付けいただければと思いますので、引き続き、今後ともよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

(吉田局長)

それではこれを持ちまして、本日の審議会を終了いたします。皆様、どうもありがとうございました。

以上